

三重大学工学研究科・工学部技術部の組織改編について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 勝 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00027082

三重大学工学研究科・工学部技術部の組織改編について

中村 勝

三重大学 工学研究科・工学部 技術部 情報グループ

1. はじめに

三重大学工学研究科・工学部技術部が1995(平成7)年3月に誕生し今年で24年になる。三重大学工学部では今年度工学部改組が行われたが、それにあわせ従来のグループ活動を見直した組織改編が行われ、機器・分析、情報、設計・計測、加工・開発、作業環境測定、安全衛生の専門分野6グループと、機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学、情報工学、実験実習工場の工学部内6コースとなった。

本報告では、三重大学工学研究科・工学部技術部の組織誕生から現在に至るまでの組織の変遷や業務について報告を行う。

2. 技術部の組織化

2.1 二系四班からなる技術部組織の誕生

1995(平成7)年3月に第一班、第二班からなる第一技術系と、第三班、第四班からなる第二技術系の二系四班の技術部が誕生した。

第一班は物理・化学をベースとした分析・開発解析等の技術開発及び技術業務(分析技術)、第二班は計測・情報処理に関する技術開発及び技術業務(計測・情報技術)、第三班は実験用機器・装置の開発及び試作と応用に関する技術業務(装置開発)、第四班は回路、制御技術及び実験用機器・装置のシステム開発・応用に関する技術業務(システム開発)であった。

各系に技術長が、各班に班長が設置された。(技術長2名、班長4名)

但し、所属は事務組織(工学部教務係)で活動も講習会開催は所属学科行われる等、活動の主は技術部組織より所属学科であった。

1999(平成11)年に共通業務として工学部のサーバ管理を行うためにネットワークグループが、2000(平成12)年には三重大学講堂の機器を操作するために講堂機器操作グループが、有志により発足した。ネットワークグループは2004(平成16)年の組織改編の際には専門分野別のグループとしての前身となった。

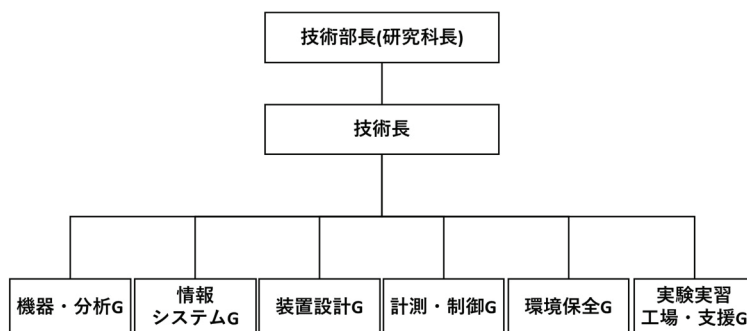
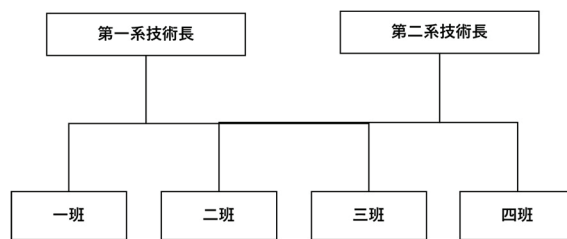


図2 2004(平成16)年の組織改編後の技術部組織図

2.2 2004(平成16)年の組織改編

2.2.1 グループ及び組織について

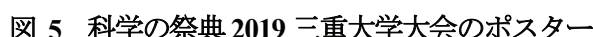
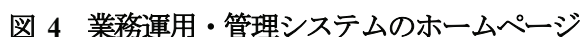
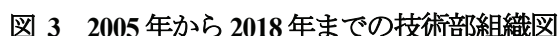
技術職員のいない研究室等に技術を

各グループの業務内容は、機器・分析グループが分析機器の技術開発・管理、技術指導及び依頼分析を、情報システムグループが情報機器、ネットワークおよびソフトウェアのシステム設計・開発、運用管理、技術指導を、装置設計グループが研究用実験装置の設計、製作、技術指導を、計測・制御グループが計測・制御に関する装置、ソフトウェアおよびシステムの開発、技術指導を、環境保全グループが環境技術分野、安全衛生分野における技術業務を、実験実習工場・支援グループが実験・実習工場の技術支援業務であった。2005(平成17)年に装置設計と環境保全が統合し装置開発グループに、2006(平成18)年に計測・制御と情報システムが統合し計測・情報システムとなり、組織改編が行われるまでの期間は機器・分析、計測・情報システム、装置開発、実験実習工場・支援の4グループ体制が続いた。

組織としては技術長 1 名、グループリーダー 6 名体制で発足し、2005(平成 17)年に技術長補佐 2 名のポスト新設を行った。前述したグループ再編があり、最終的には技術長 1 名、技術長補佐 2 名、グループリーダー 4 名体制となった。

2005(平成17)年より所属が工学部技術部となったため休暇届や超過勤務等の管理監督者が技術長となり、技術部として行うようになった。

これまで技術部に所属する技術職員は配属されている研究分野に関する技術支援業務を中心に行ってきたが、これまでの研究分野に加え工学部全体に対し技術支援業務を拡大することとなり、グループの業務負担割合と研究室の業務負担割合を 50 対 50 を目安に依頼業務の実施を行うこととした。技術職員の所属、居室がバラバラなこともあり情報共有や迅速な対応を可能



とするために、2004(平成16)年から依頼業務の受付にはwebアプリケーションを利用した業務運用・管理システムを開発・使用した。

専門分野別のグループ以外の活動として、2005(平成17)年から、三重大学全学の粉じん、特定化学物質、金属、有機溶剤の作業環境測定を、2008(平成20)年から放射性物質の作業環境測定を開始した。2011(平成23)年にはガラス加工細工対応を、2016(平成28年)3Dプリンター造形サービスを開始した。

地域貢献活動としては小中学生を対象とした「ものづくり・体験セミナー」を2009(平成21)年から開催して今年で11回目となる。また、三重大学内で開催する「青少年のための科学の祭典 三重大学大会」にも2009(平成21)年から毎年参加している。

2.3 2019(平成31)年の組織改編

2.2.1 グループ及び組織について

2019年度より三重大学工学部・工学研究科は機械工学、電気電子工学、分子素材工学、建築学、情報工学、物理工学専攻の6専攻(6学科)から工学部全体を1学科とし専門分野ごとのコース制(機械工学コース、電気電子工学コース、応用化学コース、建築学コース、情報工学コース)へと移行した。

技術部も改組に合わせ、従来のグループ活動を見直し、機器・分析グループ、情報グループ、設計・計測グループ、加工・開発グループの4つの専門分野と作業環境測定グループ、安全衛生グループの2つの専門業務からなる専門分野別6グループと、各研究室における学部学生の実験・実習の技術指導及び大学院研究・教育支援業務の機械工学コース、電気電子工学コース、応用化学コース、建築学コース、情報工学コース、実験実習工場コースの工学部内6コースとした。

技術職員はコースには必ず一つ所属する。一方、専門分野部別グループの所属では複数グループに所属可としている。

各グループ、コースにそれぞれリーダーが設置され、技術長1名、技術長補佐2名、グループリーダー6名、コースリーダー6名体制となった。

第11回 夏休みものづくり・体験セミナー

主催 三重大学工学研究科技術部
後援 津市教育委員会
協賛 (株) 栄隆理化

開催テーマ

- ・材料実験を体験しよう
8月1日(木) 13時～16時30分
対象: 中学生(定員4名)
- ・伊勢型紙を切り抜いて金の装飾をしよう
8月6日(火) 13時～16時
対象: 小学高学年～中学生(定員3名)
- ・3Dプリンタものづくり体験
へくるくる回るキーホルダーを作ろう
8月8日(木) 10時～16時
対象: 小学5年生～中学生(定員5名)
- ・顕微鏡で見るミクロな世界
8月20日(火) 13時30分～15時30分
対象: 小学高学年～中学生(定員4名)
- ・発電について学んでみよう!
8月23日(金) 13時～16時
対象: 小学高学年～中学生(定員5名)
- ・涼感って何だろう?
8月1日(木) 13時～16時30分
対象: 中学生(定員6名)
- ・LEDを用いた光るオブジェを作ろう
8月6日(火) 13時～16時30分
対象: 小学高学年～中学生(定員15名)
- ・ピンホールカメラを手作りして写真を撮ろう
8月9日(金) 13時～16時
対象: 小学高学年～中学生(定員3名)
- ・光について学んでみよう!
8月22日(木) 13時30分～16時30分
対象: 中学生(定員4名)
- ・コンクリートの性状を学びながらモルタル作品を作ろう!
8月23日(金) 13時～16時
対象: 中学生(定員4名)

参加費無料 傷害保険付

応募締め切り 7月15日(月) お問い合わせ
三重大学 工学研究科技術部 地域貢献推進委員会(担当: 田村)
詳しくは『三重大学工学研究科技術部』まで
<http://www.techeng.mie-u.ac.jp> 電子メール: tamu_m@chem.mie-u.ac.jp
電話 番号: 059-231-9412

図6 夏休みものづくり・体験セミナーのポスター

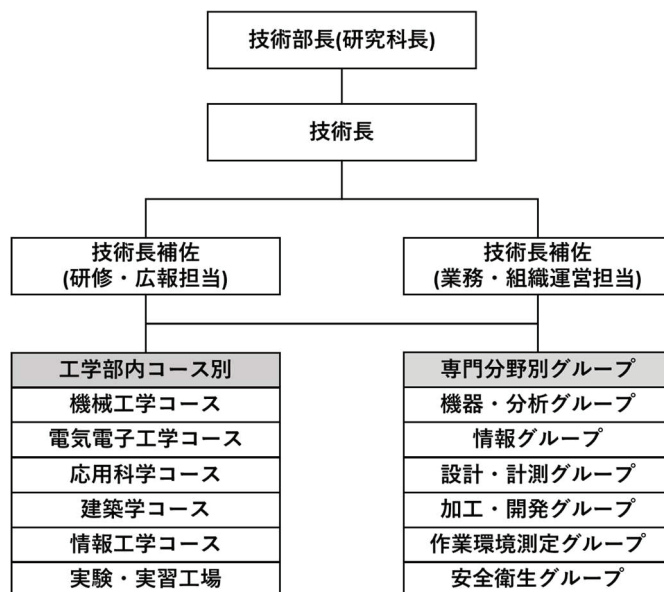


図7 現在の技術部組織図

2.3.2 業務について

2018(平成30)年より「技術職員による技術報告集」の掲載事項が三重大学技術発表会のみとなったため、それまで技術職員による技術報告集に掲載していた学内外の研修や発表会などの参加報告や出張報告、地域貢献として実施しているものづくり・体験セミナーなどの地域貢献活動に加え、機器分析 計測・情報システム 装置開発 実験実習工場・支援の4グループの業務(グループ業務)および個別で行っている業務(個人業務)を加えた「三重大学工学部・工学研究科技術部報告集」を2019年に技術部として発刊した。

3. おわりに

本学では技術職員が、必要とされる技術の習得や技術力の向上を図り、工学部の発展に寄与する組織としてより良い組織にすることを目的とした技術部の組織改編が行われたが、組織改編に合わせた技術部内規や申し合わせが作成されておらず、技術部ホームページ等変更すべき箇所も存在しているため、早急に対応する必要がある。

最後に発表の機会を与えて頂いた、静岡大学関係者の方々に御礼申し上げます。

参考文献・引用文献

[1] 令和元年12月 三重大学工学部創設五十周年記念誌

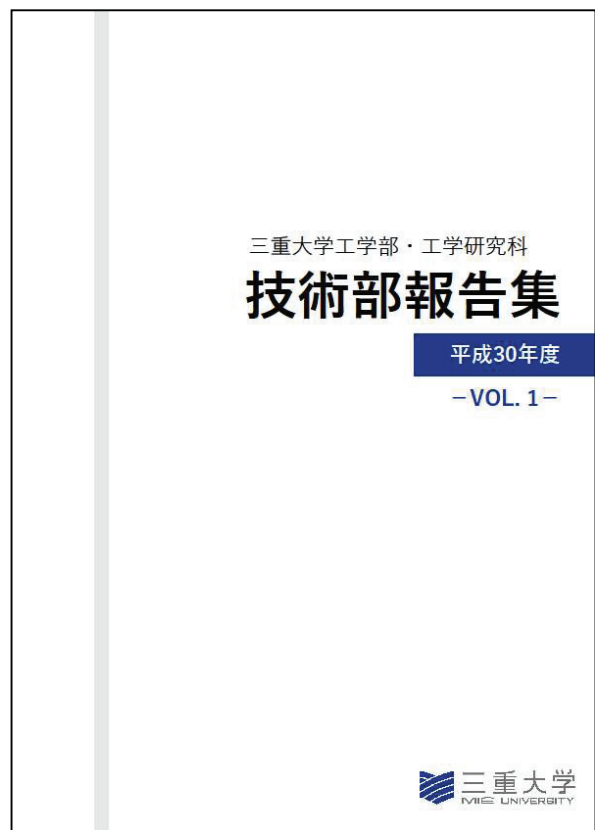


図8 三重大学工学部・工学研究科技術部報告集